

令和元年第4回定例会

富良野市議会議録（第4号）

令和元年12月12日（木曜日）

令和元年第4回定例会

富良野市議会会議録

令和元年12月12日（木曜日）午前10時00分開議

◎議事日程（第4号）

日程第 1 市政に関する一般質問

渋谷 正文 君	1. 本市農業が抱える課題と対策について
宮田 均 君	1. 新庁舎建設について
	2. ふらの版DMO推進事業について
	3. 体育施設について

◎出席議員（18名）

議長	18番 黒岩 岳雄 君	副議長	11番 今利一 君
1番	宮田 均 君	2番	松下 寿美枝 君
3番	宇治 則幸 君	4番	家入 茂 君
5番	石上 孝雄 君	6番	大西 三奈子 君
7番	佐藤 秀靖 君	8番	小林 裕幸 君
9番	渋谷 正文 君	10番	大栗 民江 君
12番	天日公子 君	13番	関野 常勝 君
14番	日里 雅至 君	15番	本間 敏行 君
16番	水間 健太 君	17番	後藤 英知夫 君

◎欠席議員（0名）

◎説明員

市長	北猛俊 君	副市長	石井 隆 君
総務部長	稻葉武則 君	市民生活部長	山下俊明 君
保健福祉部長	若杉勝博 君	経済部長	後藤正紀 君
ぶどう果樹研究所長	川上勝義 君	建設水道部長	小野豊 君
看護専門学校長	澤田貴美子 君	総務課長	今井顕一 君
財政課長	藤野秀光 君	企画振興課長	西野成紀 君
教育委員会教育長	近内栄一 君	教育委員会教育部長	亀渕雅彦 君

農業委員会会長 及川栄樹君	農業委員会事務局長 井口聰君
監査委員 鎌田忠男君	監査委員事務局長 佐藤克久君
公平委員会委員長 中島英明君	公平委員会事務局長 佐藤克久君
選挙管理委員会委員長 伊藤和朗君	選挙管理委員会事務局長 大内康宏君

◎事務局出席職員

事務局長 清水康博君	書記 高田賢司君
書記 佐藤知江君	書記 倉本隆司君

午前10時00分 開議
(出席議員数18名)

開 議 宣 告

○議長（黒岩岳雄君） これより、本日の会議を開きます。

会議録署名議員の指名

○議長（黒岩岳雄君） 本日の会議録署名議員には、

大 西 三奈子 君

閑 野 常 勝 君

を御指名申し上げます。

日程第1 市政に関する一般質問

○議長（黒岩岳雄君） 日程第1、昨日に引き続き、市政に関する一般質問を行います。

それでは、ただいまより渋谷正文君の質問を行います。
9番渋谷正文君。

○9番（渋谷正文君） -登壇-

おはようございます。

さきの通告に従いまして、順次、質問をいたします。

本市農業が抱える課題と対策についての1点目は、ICTを活用した農村部における情報インフラ整備についてお伺いします。

我が国における農業は、他にかけがえのない最も重要な基幹産業であって、勘と経験から形成されるすぐれた技術が存在し、その土地で長く培われたノウハウが日本の農産物の高い品質を支えてきた側面があります。しかし、後継者不足により農家が廃業してしまうことにより、勘と経験から形成されるすぐれた技術の継承が困難となり、その結果として、国産農産物の質の低下につながるおそれがあります。

農業は、食という私たちの生活の根幹を支える産業であり、農業が衰退すれば、海外から輸入する食料への依存度をさらに高めることになります。そのため、農業が抱える諸課題にいかに取り組むかが今後の日本の生活を左右する大きな鍵となります。よって、総合品目供給産地として、富良野農業が果たす役割はとても大きいものがあります。

こうした課題を解決する手段として、近年では、農業分野においても技術革新が進み、IoTやAI（人工知能）を活用したスマート農業が加速しつつあります。

第3次富良野市農業及び農村基本計画では、踏まるべき本市農業の主要な課題・事項として、（3）主要作物の振興および生産条件整備の③スマート農業の推進の

中で、「働き手不足を補い、かつ、一戸当たりの耕作面積の上限を引き上げるために、IT技術等を用いたスマート農業により、省力化・効率化を進め、労働負担の軽減を図ることが必要である。」こと、また、（6）農村の維持・振興では、②情報インフラの中で、「現代の生活基盤として、また、スマート農業の推進のためにも大容量のデータ通信ができる環境整備が必須となっている。農村部でも整備が一定程度進んでいるが、今後の拡充が課題となっている」と述べられております。

ここで、三つの点をお伺いいたします。

一つ目に、私が行いました平成29年第1回定例会一般質問では、農村部の情報インフラ整備の方向性について、情報通信利用の実態と、将来はどういう利用方法を希望しているかを把握し、長距離無線LANによる方式、光回線で接続する方式、その他の情報通信機器を用いる方式などについて、整備費用に加え、利用者の通信コストも考慮して総合的に検討するとの答弁がありました。現在まで進めてきた総合的な検討の経過についてお伺いします。

二つ目に、第3次富良野市農業及び農村基本計画を踏まえ、富良野農業、農村におけるICT技術やAI技術等を活用したスマート農業を進める上で、課題解決のために、農村部全域をカバーする情報インフラの整備が必要となってくるのではないか。所見を伺います。

三つ目に、情報インフラ整備を進めることによって、10年先、20年先も総合品目供給産地として富良野農業は成り立っていくのか。労働力の必要性及び方向性についてお伺いします。

2点目は、未整備地域における光ファイバ等の超高速ブロードバンド基盤の整備についてお伺いします。

未整備地域におけるICT基盤の整備については、今後の人口減少や人口流動に伴う集落の状況や、地域ごとに異なるニーズを十分に踏まえつつ、医療、教育等の社会的課題の解決や地方創生に資するよう進める必要があると考えます。農業関係の各団体や懇談会等の意見交換の中でも、農村地域から要望があることは市側も認識していることと思いますので、二つの点をお伺いします。

一つ目に、「基本的に拠点まで38.8キロメートルの整備をさせていただき、敷設された両サイドおおむね150メートルの範囲のお宅については、そこから引き込みが可能」との当時の答弁がありますが、実際には申し込みを断られたというケースがあったと聞いています。未整備地域における公共施設等まで整備後の農村地域における現在の状況についてお答えください。

二つ目に、市民要望を踏まえ、富良野市域全域にひとしく情報通信技術に接する機会を提供する施策に転換すべきではないでしょうか。農村地域における面的整備が必要と考えます。市の見解を伺いまして、第1回目の質

問といたします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） -登壇-

渋谷議員の御質問にお答えします。

本市農業が抱える課題と対策についての1点目、ICTを活用した農村部における情報インフラ整備についてであります。平成29年度から新たにスマート農業促進支援事業に取り組んできており、GPSを活用したトラクターの自動操舵システムや、ハウスの環境制御システム、農薬散布用ドローン、クラウド営農支援ソフトの導入を支援してまいりました。

あわせて、市が主催するふらの未来農業EXPOにおいて、スマート農業に関する研修会や農機等の展示、実演会の開催のほか、先端技術開発に取り組むメーカーや先進的農場への視察を行うなど、スマート農業の啓発に努めてきました。

また、第3次農業及び農村基本計画の策定に当たっては、農業団体役員、青年部、女性部、部会等との意見交換を行い、その中でスマート農業へのニーズを把握してまいりました。今後は、より高度なスマート農業の実現に向け、農業者を中心とした（仮称）スマート農業研究会の立ち上げを検討してまいります。

次に、農村部全域をカバーする情報インフラの整備につきましては、（仮称）スマート農業研究会の支援とともに、情報ネットワーク環境の整備については、国の動向を注視し、調査研究してまいります。

次に、本市の農業を総合品目産地として維持するための労働力の必要性については、農作業の省力化、軽作業化等を目的としてスマート農業を推進してまいりますが、園芸作物においては、依然として人手を必要とする作業が多くありますので、引き続き労働力確保対策に取り組んでまいります。

2点目の未整備地域における光ファイバ等の超高速ブロードバンド基盤の整備についてのICT基盤の整備経過についてであります。農村地域における光回線の整備につきましては、平成26年に市内全域総延長264キロメートルの整備費用を試算したところ、総額12億4,800万円という結果がありました。

また、平成27年に、地域住民の利用意向を把握するため、未整備地域全1,896世帯を対象にアンケート調査を実施したところ、回答された690世帯のうち、光回線が整備された場合には新規に加入したいと回答した方は29%にとどまったことから、全世帯への光回線整備は投資効果が見込めないと判断し、平成29年度に、小・中学校等の公共施設のほか、布部市街地、麓郷市街地、東山市街地を含めた43キロメートルの光回線を整備したところであります。この整備により、475世帯が光回線を接続するこ

とができるようになり、そのうち、本年11月末時点では、113世帯、24%が加入したところであります。

次に、市内全域への情報通信技術の提供につきましては、通信環境の変化と市民要望を踏まえ、北海道総合通信局と補助事業の可能性について、また、NTT東日本と技術的な整備の可能性について、それぞれ協議しているところでございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 再質問ございますか。

9番渋谷正文君。

○9番（渋谷正文君） それでは、順次、再質問をさせていただきたいと思います。

まず、1点目の本市農業が抱える課題と対策についてでありますけれども、これまでの検討経過について御説明いただいたのですが、どうして私が今回この質問をするかというと、実は、ICTを活用した今回のスマート農業というのは、農業界にとって革命的なことあります。どういうところと比較するかというと、例えば、戦後、種子の生産性、いわゆる良質な種子を生産することになったことや、化学肥料ができて、それを投下することによって穀物が大量に生産できるようになったという技術革新、こういうようなところと同じぐらいのインパクトがあるのではないかというふうに私は思っております。

また、富良野地域においては、コールドチェーン、いわゆる冷蔵したものを産地から消費地まで一貫して運べる体系をつくった。これは、実は富良野農業が北海道で一番最初にできたのですね。こうした一番最初にできたというところから、これは、実はニンジンが洗いニンジンとして全国の各市場に届けられるようになって、そのニンジンの品質のよさがすばらしいということで、富良野野菜の、富良野の農産物のよさが全国に行き渡り、これをスタートとして、その後の野菜振興、いろいろな品目ができてきて、そして、その野菜も予冷をかけて出荷できる、こうした体制ができる、今回のスマート農業というのは、それぐらい大きな位置づけにあると私は思っているのです。

まず、一つは、1番目にありましたスマート農業の促進事業を今回行っているということでありますけれども、現在の取り組み件数について、そして、令和元年度の動向について、見えるところでお示していただければと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長後藤正紀君。

○経済部長（後藤正紀君） 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

本市のスマート農業促進支援事業の取り組み状況でございますが、平成29年度から富良野市単独の新規事業と

して実施してまいりましたが、ハウスの環境制御、それから、トラクター等のG P Sを使った自動操舵、30年度からはクラウド営農支援のシステム等の導入、さらに、本年度からは農薬散布用のドローンの導入につきましても品目等を年々ふやしてきているところでございます。ハウスの環境制御につきましては、平成29年度に8戸、30年度が4戸、本年度は既に5戸ということで、合計17戸の導入になってございます。トラクター自動操舵につきましては、29年度が8戸、30年度が6戸、31年度が2戸ということで、16戸の導入、クラウド営農支援につきましては、30年度が1戸、ドローンは本年度からで2戸ということで、全ての合計で36件の導入状況でございます。

これにつきましては、スマート農業はどんどん進歩していく、進化していくと思われます。メニュー等も、生産者の方々と協議しながら実用になったものから取り入れていく考えでございますので、来年度以降も継続してまいりたいという考え方でございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。
9番渋谷正文君。

○9番（渋谷正文君） スマート農業促進支援事業の状況について、いま、件数も示していただいたのですけれども、例えばトラクターの自動操舵については、いわゆる運転をアシストするもので、トラクターを直進させるときにずれないようにちょっとずつアシストするような機能なのかなというふうに思いますが、これは、スマート農業においては入り口の部分でしかありません。実際は、こうした自動操舵から、さらにはロボットのように無人、いわゆる乗っていて特に操縦をしなくともそのまま動くもの、さらに、その先には遠くで見ても機械が何台も自動で動き出す、そういう段階を踏んでスマート農業というのは進んでいくのかなと思います。さらには、そのトラクターにいろいろなセンサーがついて、そのセンサーの情報をもとに例えば施肥量を変えたり、その収穫量がこれぐらいあるというような情報をもとに、これはトラクターではないですけれども、収穫期においては、そうした情報をもとに、これからここにどういうような施肥を、いわゆる土地に対するいろいろな資本投下をしていくかということにつながると。そうしたことが、さらには、机の上で、営農計画だとか、そういうような農業基盤を経営者がしっかりと考えるというところにつながる。こういうような流れがスマート農業にはあるのかなというふうに私は思っております。

ですから、いまは入り口の部分でしかないですね。今回、自動操舵の導入を16戸の方が行っているということですけれども、こうした導入後の声といいますか、こうしたところはどういうふうにつかんでおられるのか。こ

の後、どのようなことをしていきたいというような状況も含めて、市側がどういうふうにつかんでいるのか、お知らせいただければと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長後藤正紀君。

○経済部長（後藤正紀君） 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

スマート農業促進支援事業のうち、トラクターの自動操舵システムについての効果といった御質問かと思いますけれども、いままでは人がフルについてハンドルを握って運転しなければならなかった部分につきまして、ある程度、自動でかじ取りができますので、その分、ほかの作業が一緒にできるとか、楽になったとは言いませんけれども、非常に省力化できたという御意見はいただいてございます。

最終的には、いまおっしゃったように、テレビドラマ等でもございましたロボットトラクター、そちらの方向にも進んでいこうと思いますが、富良野市におきましては、まだそこまでの機運は高まっていない状況でございますので、こちらのほうも新しい技術が実用化された段階で検討してまいりたいと思ってございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。
9番渋谷正文君。

○9番（渋谷正文君） スマート農業の入り口となるトラクターを実例に出しましたけれども、そうした作業軽減を図る仕組みから、その次のところへの機運が高まっていないといういまの答弁だったというふうに思っております。

この機運を高めるものは何かなというふうに僕も考えてみると、実は、遠くにあるものでこれをやっていますではなくて、身近にある実証モデルを見て、ああ、こういうふうになるのだなとか、農業者というのは見ていないようで見ているので、この人がこういうふうにやっていたら、自分はこういうふうにやってみたいなどいうふうに膨らませていくというか、私も以前、農業にかかわっておりましたので、こうした農業者の思いというのもあるのかなというふうに思っております。

ただ、国では69の実証モデルを各地域に持っていますけれども、富良野市は手挙げをしていないものですから、こうした実証モデルが現在はないのです。その中で、いま言われた機運が高まるということとどういうふうに組み合わせていくかというのは、計画づくりもそうですが、先ほど申し上げました（仮称）スマート農業研究会の立ち上げが非常に重要になってくるのではないかというふうに思います。

現在、この（仮称）スマート農業研究会の立ち上げにおいては、今後も検討するということでありましたけれ

ども、そうしたところに手挙げをする人がなかなか少ないのでないかと。僕も、少し歩いてみると、そういう感触が薄いように思います。このところをもう少しپッシュすることが必要ではないですか。ぜひとも、関係機関を通じてスクラムを組んで前に進めることができればいいのかなというふうに思っておりますが、見解を伺います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長後藤正紀君。

○経済部長（後藤正紀君） 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

近所に実証モデル等があれば、それを見ながらということですけれども、実際、トラクターあるいはハウスの換気等を見ながら、うちもいいなということで導入された方もいらっしゃいます。

今回、さらに高度なスマート農業等を進めるために、研究会という形で、まずは自分の地域でどういった方向性を目指そうか、あるいは、自分の経営、営農状態の中でどういうスマート農業が活用できるだろうかということの意見交換なり情報収集、あるいは、ちょっと遠くなっていますが、ほかの地域での状況等を確認しながら検証していくと。そのために、本年度の補助事業との関連でございますけれども、ハウスの栽培等の部分についてもまずはこの中で意見交換ができるようにということで、形的にはスマート農業を研究できる場が組織されたところでございます。これも、いろいろな地域でどんどん進めていくように、関係機関と連携しながら、市のほうでもپッシュしてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

9番渋谷正文君。

○9番（渋谷正文君） 私がどうしてここにこだわるかというと、農家個々が行うものとしても適当かとは思いますけれども、産地として、地域として取り組むことが、この地域における農業生産額の高まりにつながるものだというふうに思っているのです。個人でやることも結構ですけれども、産地として、地域として、スマート農業に取り組むという必要性をしっかりと持って、情報もいろいろな形でばらばらありますけれども、こうしたものもしっかりと集めて、より高度化していくことが大切なことで、今回、伝えております。

こうした私の考えをもとに、ぜひとも、今後も、（仮称）スマート農業研究会の立ち上げにとどまらず、こうした新たな実証に向けて進んでいただきたいというふうに考えておりますが、新たな実証に向けて、どこまでこうした思いがあるのかというところを私はお聞きしたいのですけれども、現状、お話しできるところまで結構ですので、お願いしたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長後藤正紀君。

○経済部長（後藤正紀君） 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

新たな実証の検証、あるいは、それへの取り組みでございますけれども、いま、国のほうでも来年度の予算が固まりつつある状況かと認識しております。

これにつきまして、もし活用できるものがありましたら、富良野市でどのように利用できるかも含めながら、今後、実施されているところへの視察等も含めて、富良野で取り入れる方向を検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 補足答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） 渋谷議員の御質問に補足で御答弁させていただきます。

渋谷議員の御指摘のとおり、スマート農業の重要性ということについては十分に認識させていただいております。実証実験を含めて、この後、具体的にどういう取り組みを進めていくのか、あるいは、こうした取り組みをどのように農業者に提案していくのかという御質問かというふうに思っております。

実証することについては、なかなか難しいところがあるかなというふうに思っております。道内の中でも、実証実験、それから進んで実装の取り組みを進められているところもございます。その発端になっているのが、もともとは改良事業が進められていた大規模区画の中で、どういう効率的なトラクターの運用ができるのかというところから、いまの自動運転の実証実験に入ったというふうに思っております。たまたま富良野にはこういった環境がございませんので、どういう形で実証実験を取り入れていくのかということになろうかと思いますが、いまの部分について言えば、先ほども御提案させていただいたとおり、研究会の立ち上げ、そして、その研究会の中で、農業者がスマート農業に対してどういう思い、そして可能性を考えているのか、みずから生み出していくだくことが必要かというふうに思います。

前段で御質問のあった富良野農業の持続的発展ということで言えば、まさにICTを活用した情報共有というのは、高齢を迎えた方々がリタイアしていったときに、その人たちが培ってきた技術も含めて情報を共有していくことが大切になってこようかというふうに思います。

加えて、議員からも御指摘がありましたけれども、いわゆるドローンから始まると、ドローンで生育を監視し、その生育に合わせた施肥を行い、そして、いまはどういう生育状況にあるのか、また、次の年になれば、その生育状況に合わせてどういう耕作が必要なのかという組み立てが可能になってくるというふうに思っております。

そうした意味では、いまの農業を取り巻く環境として、労働力が少ない、あるいは専業農家が減ってきてているというようなところから、大規模化が進んでいるということもありますけれども、そういったところからすると、いま申し上げたような技術だけではなくて、まだまだ発展可能な部分があろうかと思いますけれども、そういったものも同時に国の動向を踏まえながら情報を提供していく、あるいは、行政の考え方を理解していただくというようなところから始まっていこうかなというふうに思いますので、御理解いただければと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

9番渋谷正文君。

○9番（渋谷正文君） 市長は、農業者でもあります、大変造詣も深く、そして、ただいまの補足答弁も実情を踏まえて言われておりますので、こうしたスマート農業を一層加速できるように進んでいただきたいなというふうに思っております。

そのために、実は、私も少しだけ調べさせていただいだのですけれども、国も後押ししています。ＪＡグループも、北海道中央会も、いわゆるＩＣＴ、スマート農業についての後押しをしています。全国農業委員会も、ＩＣＴ、スマート農業について後押ししています。国のはうでも、農林水産省だけではなくて、総務省でもそうした新たな農業の面的整備についての後押しをしようということで、令和元年度ではこれまでの予算の8倍もつけるようなメニューも出てきている。

こうしたところを踏まえると、あとは、地域でどれだけ具体的な絵を描ければスマート農業が進んでいけるかというところだというふうに思います。ここでスマート農業の絵がしっかりと描けることが前提になって、私は、こうした情報インフラの整備が必要になってきますよねという最初のしっかりとしたメニューがあって、情報インフラを構築するのだという理由づけができるというふうに思うのです。こうした展開を踏まえていくために、実は、こうしたスマート農業の施策をしっかりと固めておくことが私は重要であるというふうに思っております。

私のこうした情報インフラの整備の考え方については、しっかりとした考えがあつてインフラ整備を行うことで、いろいろなスマート農業、5Gですか、こうしたことでも想定できる農業が展開されるのではないかかなというふうに思っております。

こうした考えについて私は意見を申し上げましたけれども、その思いを市長はどうのように考えられるか、お答えいただければなと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） 渋谷議員の再質問にお答えさせていただきます。

思いの部分ということになりましたけれども、前段で申し上げたとおり、こうした取り組みというのは、議員も一番最初に言っていた、いわゆる革命的な取り組みに変わっていく、また、社会全体がいまはそういう動きにあるということありますから、その中でこれらを導入して農業をどういうふうに育てていくかということであろうかというふうに思います。

計画をどのようにつくるのか、ビジョンをどのように描くのかということありますけれども、前段で申し上げたとおり、研究会の中で農業者と協議をしながら方向性を定め、その方向性も、持続可能な、どんな社会になつても富良野農業を守つていける、育つていけるような絵をつくり上げていくのが大事かというふうに思っております。

たまたま、いまは総合計画の策定の時期に当たっております。こうした計画、あるいは農業振興計画、それぞれの個別計画もございますが、これもそういった中でお示ししていければというふうに思っておりますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

9番渋谷正文君。

○9番（渋谷正文君） 私は、若者にとって農業が魅力的であるものかどうかというところの瀬戸際というか、その分水嶺にあるのかなというふうに思っております。この後、若者が農業をぜひやってみたい、新しい展開ができるとなると僕たちも入れるのではないか、僕たちはこういうふうにやってみたいというぐらいの展開でありますので、ぜひとも、この後、いろいろな展開を PUSHできるように、高まるように推進していただきたいなというふうに思っております。

農業の分野については以上にさせていただいて、次に、未整備地域における光ファイバ等の超高速ブロードバンド基盤の整備についてに移ります。

こちらについては、市民要望の声がなかなかならない、さらにふえてきているのではないかというぐらい、各地域における懇談会ですか、農業関係の方々の意見を聞くと、出てくるわけです。これが消えないというか、どうして出てくるかというところからすると、やっぱり、農業ですか、あり方が変わつてきているのだなということを実感いたします。

そこで、総務省が今後の光ファイバの整備方針についてということを出しているのですけれども、その中で、こういうふうに書いてあります。平成30年3月末時点の光ファイバ整備率は98.3%だそうです。残りの未整備地域の世帯数は98万世帯まで減少してきていると。そして、新しく事業を入れるのですね。これは、高度無線環境整備推進事業という名前の事業を入れて、これまでの予算が6億7,000万円であったものが、令和元年度では8倍の

52億円に増額させて、現在の98万世帯から段階的に8割減の18万世帯まで減らして、都市部との格差解消を目指すというふうになっております。また、今後の光ファイバの整備方針の中では、「5Gも見据え、無線の活用を前提に、地域の活性化や課題解決に有効な、効率的かつ効果的な光ファイバ網の構築を推進する。」とあり、さらには、「居住地だけではなく、非居住地（観光地、農地など）も含めて補助対象とする」と、家ではなくて、農地などというふうな文言が入ってきております。

これは、私が質問いたしました農村地域における面的整備というところを後押しする国の制度ができたのではないかなどと、それについての予算も、国のはうとしてはしっかりと持つということあります。さらには、この補助事業は、国の負担を3分の1から2分の1に上げております。こういうふうに状況が変化してきているということありますので、光ファイバ網の整備をしっかりと考えるタイミングではないかなと思い、質問をさせていただいた経過であります。

どういうふうにお考えになられているのか、再度、お伺いしたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

企画振興課長西野成紀君。

○企画振興課長（西野成紀君） 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

総務省のはうで創設いたしました高度無線環境整備推進事業は、地理的に条件不利な地域におきまして無線局エントランスまでの光回線を整備する場合に、その事業費の一部を電気通信事業者もしくは地方自治体に補助するもので、こうしたものが令和元年度に新規として予算化され、先ほど御指摘のありました令和元年度の予算額が52億円、そして令和2年度におきましては、現在、総務省では65億円を財務省のはうに概算要望しているというような情報も聞いております。

市といたしましても、総務省の出先機関であります北海道総合通信局のはうとも補助事業のあり方について協議を行っておりまして、現在、未整備地域におきます光回線の整備につきましてはこの高度無線環境整備推進事業によって整備ができるだろうか、こうしたことを調査研究、検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

9番渋谷正文君。

○9番（渋谷正文君） 現在、調査研究を進めているということでございますので、その調査研究を進めている中で、いまの情報を受益できる地域の方々におろして、そして、どういうような展開ができるか、そうした声と向き合っていただきたいなというふうに思います。ぜひ、情報をおろしていただきたいと思うのです。そして、検

討をしていただきたいというふうに思います。いかがでしょうか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

企画振興課長西野成紀君。

○企画振興課長（西野成紀君） 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

今後のこうした光回線の整備につきまして、情報等を地域におろして地域と向き合ってというようなお話をございました。

市といたしましても、9月から11月に行われました地域懇談会におきましても、今後のICTを活用したまちづくりにおいて、遠隔医療、遠隔教育、さらには自動走行、自動運転、さらにはキャッシュレス化、こうした時代背景をもとに、今後の情報整備についてはこうした社会になるというようなことも市民の皆様にお伝えしていく中で、今後、こうした基盤整備につきまして、来年度の総合通信局の補助の意向調査につきましてノミネートをしていただきたいというふうに考えておりますし、では、どのような形で整備が可能なのかも地域の方とお話し合いをしながら、整備の手法、可能性について探っていきたいというふうに考えているところであります。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

9番渋谷正文君。

○9番（渋谷正文君） 来年度についての言及もありました。地域におろすことも大切ですし、先ほど、私が最初に農業分野について質問したときにも、（仮称）スマート農業研究会の立ち上げを検討しているということあります。より具体的な内容について入っていくとなると、私は、（仮称）スマート農業研究会かなというふうに思っておりますし、そうしたいろいろな声を拾い上げるという大切な作業については、農村地域と向き合うことが非常に重要だというふうに思っております。

いまは、耕種農家の方のお話だけさせていただいておりますけれども、畜産分野においても非常に高度な利用体系というのが現在行われております。ドローンですか、いわゆる自動操舵のトラクター以上に、牛の牛群管理、個別認証ですね。例えば、4Kのカメラで見て、どこにどの牛がいるか、耳標をつけているところを確認しながら、では、牛がたくさんいる中でこの牛の調子が悪いといったときに、獣医にそこに行ってもらうのにそれほど探さないでもそこに着けるとなると省力化が図れるだとか、この牛の餌の食いが悪いから、どういうふうにしたらいいかというのも全部データ化されるような、より展開が広がるものを持たれているようです。

こうした展開を広げていくために、農業、いわゆる農林の部分と総務の部分と連携をとってぜひとも進めていただきたいなというふうに思っておりますが、いかがで

しょうか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

企画振興課長西野成紀君。

○企画振興課長（西野成紀君） 渋谷議員の再質問にお答えします。

総務省の事業におきます光回線の整備と、さらに農業分野との兼ね合いについてでございますけれども、現在、企画振興課のほうでこうした整備をするとしましたら、先ほどお話ししました総務省の高度無線環境整備推進事業が該当するということで、こうしたことでは基盤の整備が必要になってくるかというふうに考えております。

さらには、その先に、農林水産省といたしましてもICTを活用しましたスマート農業の実証事業なども日々行っていると聞いておりますので、こうした総務省の事業と農林水産省の事業を兼ね合わせた中での調査、検討が必要である、このように考えているところであります。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

（「了解」と呼ぶ者あり）

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、渋谷正文君の質問は終了いたしました。

次に、宮田均君の質問を行います。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） -登壇-

通告に従い、順次、質問させていただきます。

まず、1件目に、新庁舎建設に関して、環境への取り組みについて質問させていただきます。

環境と自然に配慮したまち富良野、東大演習林、美しい山々に囲まれた富良野、そこから流れる幾多の川は、生物と平地を豊かに育み、そこに住む者に豊かな心と持続可能なまちを次世代に引き継ぎます。市民との協働でなされるごみ分別も、市民一人一人が地球温暖化防止のCO₂排出規制に一役買っています。近年のはかり知れない異常気象も災害も、つくる者の責任と使う者の責任が問われると思います。今後の次世代への取り組みの中で、自然環境の保全、自然エネルギーの活用が必要であると考える視点から質問させていただきます。

1点目に、次世代に向けた新庁舎建設に対して、環境面でのCO₂排出規制などの具体的な取り組みは行われたのか。本年7月、ふらの市民環境会議が提出した市庁舎建設に関する要望書の中で、自然エネルギーの活用、木質バイオマスボイラーの活用、気候に合わせた建築、電源の要らない暖房システムなどの検討もなされたのか、お聞きいたします。

2点目に、現有設備の再利用についてお伺いいたします。

文化会館の現大ホールの椅子は、大手家具メーカーの

もので、約5,000万円以上をかけて取りかえられたとお聞きしております。音響などの市民の財産については、使えるものは環境面、経済面からも再利用が可能と思いますが、市の再利用に対する考え方と対応についてお伺いいたします。

次に、2件目にふらの版DMO推進事業についてお伺いいたします。

国は、地方創生の切り札として観光振興を進め、観光客の受け入れ体制整備に向け、観光地域づくりをマネジメントする組織、DMOの設置を進めております。これは、通年観光、それに伴う通年雇用に向けた取り組みと理解し、今後の富良野観光のあり方を示唆する重要な案件と捉えております。DMOの拠点づくりとして、コンシェルジュフラン2階のフロアを市で取得し、今後のビジョンと役割の明確化、人材、財源、権限の重要性など、それらの取り組みについてお伺いします。

1点目に、ふらの版DMOの市民周知をどのように行っているのか。

また、ふらの観光まちづくり戦略会議は、富良野市、富良野商工会議所、ふらの観光協会、ふらのまちづくり株式会社、富良野物産観光公社などで構成されていますが、観光まちづくりに対しては広い層の市民の意見の取り扱いが必要と考えますので、これについて質問させてもらいます。

2点目に、ふらの版DMO推進事業、地域DMOの進捗状況についてお伺いいたします。

ふらの観光まちづくり戦略会議の事業内容についてもお伺いいたします。

富良野・美瑛広域観光の進捗状況と地域連携DMOとの連携について伺います。

3点目に、コンシェルジュフラン2階について、今後の運営主体の方向性についてお伺いいたします。

地域DMO、地域連携DMOの区分けはできているのか。

地元に根差した取り組みが基本となると考えますが、地域DMOの今後の目標に向けてのスケジュール、事業内容の方向性についてお伺いいたします。

次に、3件目に体育施設についてお伺いいたします。

公式試合のできるラグビー・サッカー場の新設について。

2019年のラグビーワールドカップでは、国民だけではなく、市民の中にも感動が広がりました。富良野も、富良野高校、旧富良野工業高校が全国大会出場を果たしており、名門のラグビー地域であると思います。これからラグビー人口、サッカー人口、それを取り巻くラグビー・幼児教育からサッカー・幼児教育、生涯スポーツ、そして大会誘致を考えると、今まで富良野に公式戦のできるラグビー・サッカー場がなかったことが不思議なくら

いである。市長も、高校時代は名ラガーマンとして活躍されていました。

そこで、質問します。

公式試合のできるラグビー・サッカー場が必要と思うが、グラウンド新設の考え方、方向性についてお伺いし、1回目の質問とさせていただきます。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） -登壇-

宮田議員の御質問にお答えします。

1件目の新庁舎建設についての環境への取り組みであります、ふらの市民環境会議から要望のあった自然エネルギーの活用につきましては、新庁舎の環境配慮計画において、光、風、水など自然エネルギーを活かした庁舎を目指し、建築構造の高断熱・高気密化により空調負荷の低減を図り、自然採光、自然換気を取り入れ、自然エネルギーの活用を図ってまいります。

冷暖房の熱源には、一部、再生可能エネルギーである地中熱と井水熱を採用し、空冷チラーとボイラー方式を比較し、20%から30%のCO₂削減を見込んでおります。

次に、木質バイオマスボイラーの活用に関しましては、CO₂削減、環境負荷軽減、森林資源の有効活用などの効果が期待できる一方、木質バイオマス燃料の安定確保や品質の確保が重要となり、運転に関しましては専門の管理者が必要とされております。また、建設コストに関しては、ボイラー設備のコストに加え、庁舎内の燃料庫、燃料の投入設備、灰出し設備等に必要な面積を確保することが難しく、導入は困難と判断しております。

次に、気候に合わせた建築につきましては、自然採光や自然換気の採用とあわせ、地中熱、井水熱の活用を図り、熱交換式の換気システムを採用いたします。

次に、電源の要らない暖房システムでありますペレットストーブに関しましては、庁舎のような広い空間での実用的暖房システムとしての採用は困難と考えておりますが、個室空間等への利用については、今後の実施設計において検討してまいります。

自然環境の保全や自然エネルギーの活用等につきましては、今後も、実施設計において継続して検討を行い、建築物の環境性能を評価し、省エネ・環境性能と工事費のコストバランスを考慮した設計を行ってまいります。

次に、現有設備の再利用につきましては、既存の書棚等の備品や利用可能な設備等に関しても再利用を検討してまいります。

2件目のふらの版DMOの推進事業についての1点目、市民周知と市民の声の取り上げ方についてであります、ふらの版DMO推進事業は、本市の地域DMOの設置へ向けた調査、検討を行うとともに、地域DMOの役割である、観光で稼ぐ、持続的財源の確保、人材の育成、マ

ーケティングに基づく観光戦略づくりについて、市と関連団体が連携して企画、実施するものであります。

市民周知につきましては、平成29年10月から翌年3月までの広報で観光特集として6回にわたり掲載し、地域DMOの必要性や課題について周知してまいりました。

本市の観光の特性を生かし、観光地として持続的に発展するためには、市民の観光事業への理解と幅広い事業者の参画が必要と認識しておりますので、FURANO VISION 2030の策定時に、ふらの観光まちづくり戦略会議で検討するとともに、40歳以下（87ページで訂正）の市民を中心とした策定ワーキングチームを組織し、若い世代の意見を聞いてまいりましたが、引き続き、情報の周知や意見の収集、関係団体との連携に努めてまいります。

次に、2点目の進捗状況についてであります、地域DMOの検討状況は、ふらの観光まちづくり戦略会議において、観光振興財源の確保やデジタルマーケティングに関する調査研究、閑散期対策事業の協議、地域DMOの先進地視察など、ふらの版DMOの設置に向けた検討を行っております。

次に、富良野・美瑛広域観光推進協議会は、富良野・美瑛エリアのブランド力向上と旅行者の認知度の向上を目指して、アドベンチャートラベルなど新たな地域の魅力づくりに向けた取り組みや、マーケティングとプロモーション、情報発信に取り組んでおります。

地域連携DMOであるふらの観光協会との連携については、地域としてDMOを対象とする補助事業を活用する場合、ふらの観光協会を窓口として事業申請するなど、連携して広域観光事業を進めております。

次に、市が取得したコンシェルジュフラン2階の管理状況につきましては、商工観光課の使用とともに、富良野商工会議所及びふらの観光協会に貸し付け、維持管理に係る経費についてはそれぞれ応分の負担をしております。

3点目の地域DMOの検討スケジュールと事業内容についてであります、ふらの版DMOの検討は、平成28年度に、市、商工会議所、観光協会、観光関係団体などで組織する観光戦略会議の中にふらの版DMO検討委員会を設置し、協議、検討を進め、また、国内外の先進地視察などの調査研究を行ってまいりました。平成30年度に観光戦略会議をふらの観光まちづくり戦略会議に名称変更して、観光振興に係る事業を実施する組織としております。

なお、DMOの推進は、当面、ふらの観光まちづくり戦略会議が実施してまいります。

3件目の体育施設について、公式試合のできるラグビー・サッカー場の新設についてであります。

本市のスポーツ施設の整備につきましては、ふらの体育協会から、スポーツセンター、陸上競技場、テニスコ

ート、ラグビー場、サッカー場の整備要望が出されていましたが、特に老朽化が進んでいるスポーツセンターを最優先に次期総合計画で検討することとしておりますので、ただいま宮田議員からも御指摘をいただきましたけれども、ラグビー場、サッカー場などにつきましては、利用者や市民の声を聞きながら総合的に検討してまいります。

以上です。

御訂正をお願いいたします。

ふらの版DMO推進事業についての市民周知と市民の声の取り上げ方についての答弁の中で、FURANO VISION 2030の策定時に、40歳以下の市民を中心としたと申し上げなければならぬところを40歳以上と申し上げましたので、40歳以下の市民を中心としたということで御訂正をいただきます。

○議長（黒岩岳雄君） ここで、5分間休憩いたします。

午前11時04分 休憩

午前11時08分 開議

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

再質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） 質問の1件目ですが、次代に向かう環境面でのCO₂排出規制に関して、庁舎建設における具体的な取り組み内容について再質問させていただきます。

本年7月に市民環境会議から提出されました要望書の中の一つ一つについて検討したという市長の答弁でしたが、環境に対する取り組みというのは、次世代の富良野市の方向からいっても、私は非常に大切なものだと認識しております。庁舎が環境にどれだけ配慮したものになっていくかということについては、これからまちづくりにも関係してくることだと思っております。

そこで、ふらの市民環境会議からこの要望書が上がった時点で、この要望書の中身について市民と話し合われたのか。先ほどもありましたが、自然エネルギーの活用の中で、太陽光パネル、そしてインバーター式チャージコントローラーなどは、利用価値が非常に高く、冬場でも電源が確保されるという面では、今後、非常に有効なものだと思います。そういう意味では、将来に向けた環境面での取り組み方について市民環境会議と一緒に検討されたのか、あるいは、その結果を市民環境会議に報告されたのか、太陽光発電などの中身はどのぐらいの熟度で検討されたのか、再度、お聞きいたします。

○議長（黒岩岳雄君） 一問一答ですから、一つずつや

りますので、整理してください。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） ふらの市民環境会議が提出した要望書における自然エネルギーの活用の部分で、太陽光パネルなどの現実的な提案がされています。これらについては、環境会議としっかりと討議されて、そして、その結論はしっかりとこの基本計画の中に生かされたのか。いま言わされた答弁の内容からいくと、何度も聞いていますが、LEDの使用も……（発言する者あり）

とりあえず、そこら辺で再質問とさせていただきます。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

建設水道部長小野豊君。

○建設水道部長（小野豊君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

市民環境会議の要望書の中で御提案のありました太陽光発電システムの関係につきましては、まず、もともと基本計画の段階でも検討させていただいております。太陽光発電システムは、設置コストに比べて費用対効果が非常に低いこと、そして、現在、設置費に対する補助はかなり低いメニューしかないこと、それから、建設コストを回収するのに90年近くを要するというように試算しております。また、太陽光発電システムは、環境配慮としては考えられるシステムでありますけれども、災害時の実用的な利用に関しては蓄電池が必須ということもあります。パネル及び蓄電池の維持更新費用を考慮すると、ライフサイクルコストで劣るというふうに判断し、計画から除いている状況であります。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） 前段でも申し上げましたが、今まで、環境に配慮したまちづくりということで取り組んできた富良野の姿勢というのがあると僕は思うんですよね。

そこで、この建物の中で、光、風、水、高断熱でCO₂が20%から30%削減されるということではありますけれども、そうしたら、今までのごみの分別収集も経済面のことばっかりでやっていたのでしょうか。そうではなくて、向いている先は、やはり、CO₂削減など地球環境との関係を非常に意識した取り組みだったのではないでしょうか。

そういう面からいっても、ただ経済だけではなくて、次の世代にしっかりと引き継ぐような検討内容というが必要だったのではないかと思いますけれども、もう一度、その点について質問させていただきます。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

建設水道部長小野豊君。

○建設水道部長（小野豊君） 宮田議員の再質問にお答

えいたします。

新庁舎の計画に当たりまして、ライフサイクルコストと建設コストについては市民からも非常に要望がありまして、まずは建設コストを抑えるといったことがあります。さらに、環境面にも配慮したシステム、設備等を検討していく中で、建設コストとランニングコスト、そして、環境といった面からコストバランスを比較して設備等の導入を検討してきたところでございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） 環境面に対しての取り組みについては、非常に残念だと言わざるを得ないと思います。

やはり、世界が、地球が、日本が、そしてこの富良野が、今後、どういうふうに環境面と向き合っていくのかという姿勢に対して、経済に翻弄された中でその方向性を見失っているのではないかと僕は思うのですが、その点についてお伺いします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

建設水道部長小野豊君。

○建設水道部長（小野豊君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

環境面に関する考え方といったことかと思います。

いま、新庁舎の実施設計を行っておりますが、その中で、建築物の環境性能の評価するために、C A S B E E と言われる建築環境総合性能評価システムというものがございます。このシステムを活用しまして、建築物の建設維持管理費等により発生するさまざまな環境負荷を多面的に評価できますので、こうした環境性能等を評価して環境に優しい庁舎を目指して実施設計をしていきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） この間の実施設計のプロポーザルでも、いまの環境面の関係で、ああいう点数のつけ方というのは非常に大事だなど僕は思うのです。あのプロポーザルについては、大成さんではなくて、もう一方の点数のほうが高いというように見ておりましたけれども、選定委員としては、環境面での評価をどういうふうにさって判断しているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 通告の内容で質問してください。

御答弁願います。

建設水道部長小野豊君。

○建設水道部長（小野豊君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

先日行われました優先交渉権者のプロポーザルのお話かというふうに思います。

その中で、確かに、環境に配慮するといったような項目もございます。いまはその結果等が手元ないので、どちらがどうだったかというようなところは申し上げることはできませんけれども、評価項目にはもちろん環境面はあります。それから、地元の経済に対する評価というのも、もともと大きく評価させていただいております。さらに、全体の建設コストに関する評価、あるいは、企業の評価といったところから総合的に評価されて優先交渉権者が選定されております。その中で、環境評価の部分もあるというふうに考えております。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） いま、内容や点数についてわからないと言っていましたけれども、環境面の評価として点数に差があったわけですね。選定された建設会社より、参加した建設会社のほうの点数が高かったと。そこら辺の評価は、どんな項目で、どういうふうな形で環境面のことを考えられたのかということをお聞きしているのです。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

建設水道部長小野豊君。

○建設水道部長（小野豊君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

プロポーザルにおける各者の環境面に対する評価といったような内容かと思います。

各者が提案しておりますプロポーザルの技術内容というのは、各者で考えてきているものであり、こちらのほうから、こういうことを提案してくださいというふうに言っているものではございません。中には、先ほど申し上げましたように、C A S B E E によって環境性能評価をするという会社もございます。ですから、それぞれの項目に対する点数ということではなくて、参加される業者の提案とヒアリングを受けて、それぞれの評価委員によって点数がつくといった内容になっています。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） それでは、次の質間に移らせていただきます。

環境面、経済面で見た現有設備の再利用についてお伺いいたします。

文化会館を例にとって、大ホールの椅子、その他、音響設備についてはどれぐらい検討されたのか、具体的にお示しください。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

建設水道部長小野豊君。

○建設水道部長（小野豊君） 宮田議員の再質問にお答

えいたします。

現有設備の再利用の検討内容といったような質問かと思います。

いまありました文化会館の客席というお話につきましても、現存の設備等を確認させていただきまして、再利用が可能かどうかを検討させていただきました。その中では、確かに、文化会館の客席はまだ新しく、設備を入れかえたばかりだといった感覚というか、私自身もそういうふうに思っておりました。しかし、20年近く経過しているものであり、現存の設備を確認したところ、金具や機構等が強度的にちょっと弱いという評価をしております。また、ファブリック、布地の部分等に関しても、ぱっと見るとそうでもないのですが、やはり傷みがあります。それから、既存の客席は幅が少し狭く、いまのトレンドではもう少し広い形になっておりまして、再利用的にはちょっと難しいのかなというふうに考えているところです。

そのほか、例えば音響関係でいきますと、議会の委員会室の音響設備等は再利用できるのではないかといったことや、本庁舎の地下にあります電動の書庫等は再利用できないかというふうに考えておりまして、ほかにも幾つかありますが、その辺もいまは検討段階という状況です。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） 大ホールの椅子のことについて再度質問させていただきますが、部長がおっしゃったように、市民も、見た感じではまだ使える、狭いのはもとからなので、何十年もそういうものだと感じている市民は、あれで十分だろう、高額な椅子を買うより、それが使えるなら直して使ったらいいのではないかという感覚なのです。

いま、項目も言いましたけれども、その項目の細分化もちょっとわかりにくく答弁だったので、再利用の項目については、大ホールも含めて再度検討していただきたいなと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 暫時休憩します。

午前11時27分 休憩

午前11時28分 開議

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

御答弁願います。

建設水道部長小野豊君。

○建設水道部長（小野豊君） 宮田議員の再質問にお答

えいたします。

文化会館の観客席の再利用という点での再質問かと思います。

先ほども申し上げましたとおり、狭いこともあるのですが、金具等に強度不足が見られまして、その修理費等も考えますと、コスト的には逆に上がるのではないかというふうに考えています。また、文化会館の椅子の再利用となりますと、新庁舎ができるからその椅子を取り外して動かす期間は文化会館を使用できないことも生じるなど、そうしたことを総合的に判断して再利用は難しいというふうに判断しているところです。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） 椅子を修理することによってコストが高くなるのではないかと言われましたけれども、僕は、経済的な面だけではなくて、再利用するという環境面のこともしっかりと考えていくことが必要でないかと思うわけです。

ですから、単に上がるのではないかということだけではなくて、しっかりと経済面を含めて、例えばコストが一緒になる、期間がかかるなどということもございますけれども、そういうものはもっとしっかりと検討されるべきだと思います。その点について、もう一度質問させていただきます。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

建設水道部長小野豊君。

○建設水道部長（小野豊君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

文化会館の客席の再利用に関しまして、そっくり持っていくという形ではなく、部分的に再利用できるものはそうした場合のコスト比較では、1,200万円ほどのアップになるというふうに考えております。

もちろん、基本的に、再利用といった環境面も大切に考えて実施設計を進めているところでありますけれども、先ほども申し上げましたとおり、建設コストの面も大切であるというふうに考えてございますので、イニシャルコストとランニングコストのバランスも考えてコストを下げていきたいというふうに考えているところです。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） 再利用については、今後も取り組まれるということで、次の質問をさせていただきたいと思います。

ふらの版DMO推進事業についてお伺いします。（発言する者あり）

質問の1点目のふらの版DMOの市民周知は、広報な

どで行っているということでした。ふらの観光まちづくり戦略会議には富良野市も入っておりますが、このふらの観光まちづくり戦略会議というのはDMCと理解してよろしいのでしょうか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長後藤正紀君。

○経済部長（後藤正紀君） 宮田議員の御質問にお答えいたします。

観光まちづくり戦略会議がDMCかという御質問でございますけれども、DMCではございません。DMCは、カンパニー、いわゆる会社でございます。組織の形態として会社の場合はDMCですが、通常の組織の呼び名としてはオーガニゼーション、DMOが通称かと思います。

まちづくり戦略会議につきましては、いまは地域DMOの企画、立案等を担っている場所ということで、正式にはDMOという形にはなりませんけれども、実質的にDMOとしての機能を行っていると認識してございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） いま、DMCではないとお答えいただきました。

それでは、いま、これで目指しているものについて、平成28年に設立されたと言っておりますが、私は、DMOの推進事業としては、やはり会社組織になって次の段階を踏んでいくことが大切だと考えますけれども、今後の方向性やビジョンをどのように持っているのか、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長後藤正紀君。

○経済部長（後藤正紀君） 宮田議員の御質問にお答えいたします。

いま、富良野地域におきましては、ふらの観光協会が地域連携DMOという形で美瑛から6市町村での全体の観光等を推進する立場にございます。その中で、富良野市の観光の推進のためには、DMCの検討という形での独自の考え方、さらに、それを実質的に運営するためのスタイルが必要だらうと考えております。本来ならばDMOと言ってもいいのですけれども、当初、法人格が必要なものですから、会社等での活動が望ましいだらうということでふらの版DMC検討委員会という名称で進めました。ただ、いまは、富良野市独自の観光推進のためには、どんな形の組織がいいのか、もちろん地域DMOとして登録するかどうかも含めて検討しております。また、観光事業の推進につきましても、先ほど言いましたまちづくり戦略会議に市も含めて各種団体等が集まってございますので、その中で協議、検討しながら進めてございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） いまの説明では、いまは観光協会が地域連携DMOを担って、それに提案型として観光まちづくり戦略会議が携わっていて、DMCはできていないと。そうすると、将来の形として、DMCという会社組織には市はかわらないということですね。要するに、DMCという会社組織にする場合、市はこれからどういうふうな立場になっていくのか、そこ辺をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長後藤正紀君。

○経済部長（後藤正紀君） 富良野市としては、ふらの版DMCは地域DMOと同じ意味で使わせてもらっております。富良野市独自で観光を推進するための組織、母体ということで、その中には経済活動等も含まれますので、会社等が望ましいということからDMCを想定してございます。

ただ、これについて、市は全く関係ない、勝手にやりなさいというのではなくて、推進母体は地域DMOの形になりますけれども、もちろん、その上部として、先ほど言いました地域連携DMOであるふらの観光協会もございますし、富良野・美瑛広域観光推進協議会もございます。さらに、富良野市内では、観光まちづくり戦略会議といった企画、立案等を行う場もございますので、それを実質的に実行する組織がいわゆるふらの版DMCあるいは地域DMOになろうかと思います。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） ふらの版DMOについて、いまの回答ですと、ふらの観光協会に委託しているのは地域連携DMOということでおろしいですか。確認をお願いします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長後藤正紀君。

○経済部長（後藤正紀君） 宮田議員の御質問にお答えいたします。

いま、日本におきましてはDMOの形が3層構造になっておりまして、広域連携DMOは北海道全体を組織しております。その下の段階として、地域連携DMOという形で、富良野、美瑛など6市町村を対象とした富良野地域でのDMOがありまして、いま検討しているのは富良野市内を対象とした地域DMOでございます。ただ、これはあくまでも法人格組織ですので、市が単独になるとか、あるいは、市が一緒になった法人の形が必要とか、そういうことも含めまして現在検討してございますけ

れども、現状としては観光まちづくり戦略会議の中で企画等を進めてございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） ちょっとわかりにくくて、ふらの版DMOというのは、地域連携DMOの下に地域DMOがあるという回答に聞こえたのです。

僕は、これは別物ではないかと思うのです。地域DMOと地域連携DMOは違っているわけですが、そうすると、地域連携DMO、例えば富良野、美瑛の広域観光のつながりと一緒に締めると、いま、両方が走っていますけれども、その答弁からいくと、そこら辺の区分けがちょっとわかりにくくなるので、説明をお願いできますか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長後藤正紀君。

○経済部長（後藤正紀君） 宮田議員の御質問にお答えいたします。

いま、観光政策等につきましては、国のほうではDMOを対象に補助等も含めて支援を進めているところであります。

そういう中で、地域連携DMOにつきましては6市町村での事業で、もちろんその中にはそれぞれ個別でやるものもございますけれども、これを進めるというのが全体の意義でございます。それとは全く別に、それぞれの市町村ごと、あるいは、さらにその下の地域ごとのDMOということで、地域を範囲とする活動を行っているところもございます。富良野市としては、富良野市を対象地域としたDMOが必要かどうかを含めていま検討しておりますけれども、市内単独での観光の推進につきましては、別途、ふらの観光まちづくり戦略会議等で進めてございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） いまのお話ですと、地域連携DMOを推進しているということです。

しかし、私は、今後は、やはり、地域DMOということで、連携を含めて、地域としての力、取り組みが非常に大事になってくると思います。そういうことと並行して、ブランディングも含めて地域として取り組んでいくことが大事だと思うのですけれども、最後にその点について再質問させていただけますか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長後藤正紀君。

○経済部長（後藤正紀君） 宮田議員の御質問にお答えいたします。

地域のブランディングということでございますけれども、これにつきましては、非常に重要な考え方だと思つ

てございます。富良野は、非常に知名度が高いです。さらに、富良野・美瑛は観光地としても非常に人気のあるところでございますので、このブランディングをさらに向上するために、名称を発展させるために、特にいまは満足度調査を進めてございますので、ブランディングのほうを進めてまいりたいと思ってございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） 最後に、体育施設について、公式試合のできるラグビー・サッカー場の新設についてお伺いしたいと思います。

市長答弁にあったように、要望が出ているということで、優先順位としてはスポーツセンターの整備が先の事業になるという説明をお聞きしました。

しかし、前段でも申したように、富良野のラグビーの歴史、そして、全国大会出場も果たしていること、さらにはサッカーについても、ワールドカップあるいはテレビなどで盛り上がりがある中で、富良野に公式試合ができるラグビー・サッカー場が必要だと僕は考えるのです。

いまはできないということですが、端的に言って、今後の方向性について何か光あるものがありましたら、お聞きしたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） 宮田議員の再質問にお答えさせていただきます。

体育施設の整備、充実ということは、富良野市のスポーツ振興あるいは市民の健康に向けても重要な案件というふうに理解させていただいております。

ただ、いま申し上げたとおり、いまの段階においては、市の整備計画では優先順位がスポーツセンターとなっておりますので、その部分については御理解をいただきたいというふうに思います。

この後のスポーツ施設の整備の考え方になりますけれども、圏域の人口を全部入れても4万人ちょっとというような状況になってまいりました。そういう中で、充実した体育施設、スポーツ施設を整備していくことは、決して一自治体でやることがベストというふうには考えておりません。今後は、圏域が力を合わせて、公式の競技に対応できるような整備をしていくというのが求められてくるかなというふうに思っております。広域での検討も含めて、この後の整備計画を考えていきたいというふうに思っておりますので、御理解をいただきたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

よろしいですか。

（「了解」と呼ぶ者あり）

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、宮田均君の質問は終了いたしました。

散 会 宣 告

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

明13日、16日は議案調査のため、14日、15日は休日のため、休会であります。

17日の議事日程は、当日御配付いたします。

本日は、これをもって散会いたします。

午前11時46分 散会

上記会議の記録に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和元年12月12日

議長 黒岩岳雄

署名議員 大西三奈子

署名議員 関野常勝